

<「知るっば!久留米」 令和3年7月29日(木) 12:30~放送分>

## 全国総本宮 水天宮 ～第5回～ 「水天宮の今と未来」

<ゲスト：全国総本宮 水天宮 権宮司 眞木 啓樹さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です!

今月は、『全国総本宮 水天宮』をテーマにお送りしてきました。

シリーズ最終回となる今日は『水天宮の今と未来』をテーマにお伺いします。

ゲストはこの方です!

ゲスト:眞木さん(以下「眞木」)

水天宮の眞木啓樹(ひろき)でございます。よろしくお願いします。

坂本 伝統を重んじる神社ということで、ここまでたくさんのお話を伺ってきました。

新しい取り組みというのがイメージできるかな?ということなんですが、

実は、私は地元なのでよく知っているのですが、水天宮ではコンサートやマルシェ、

ライトアップイベントなど、なかなかお洒落な催しが行われるようになっています。

私も地元の一人として、よく拝見しに行っているのですが、

新しい取り組みをするようになったのには、どんなきっかけがあったんですか?

眞木 そもそも、水天宮の一番南側、第一鳥居の入口の所は少し殺伐としていたんですけど、

もっと賑やかにできないかなと自分の中では思っておりました。

そして、ある時に「発心コンサート」に出演されている方から、

発心公園でコンサートができなくなったので水天宮の境内を使えないかという相談を受けました。

じゃあ、「発心コンサート」を水天宮の南側でやってみようかなと考えたのがスタートで、

実は私達から物事を始めましようと言って始めたものではないんですね。

坂本 なるほど、眞木さんが言い出したのではなくて、周りの人からお願いされて始まったんですね。

その発心コンサートを水天宮に持ってきたのをきっかけに、

また他の違うイベントも始まるようになったというわけですね。

眞木 そうですね。ちょうど同じ頃に、久留米商工会議所のみなさんと「水天宮ライトアップコンサート」がスタートしました。

坂本 きれいですもんね。

眞木 ライトアップコンサートは、本殿の目の前でするコンサートですが、地元のみなさん方と一緒に作った灯籠(とうろう)で境内をライトアップして、幻想的な中でライブが開かれるというとてもロマンチックなイベントです。毎年3月頃の椿のシーズンに開催して、お昼にはマルシェも開かれて、境内が多くの人で賑わっています。この2年間は、新型コロナウイルスの影響で中止となっていますが、普段と違った水天宮を見て頂ける良いきっかけじゃないかなと思っています。

坂本 ライトアップされた夜の境内というのは、昼間とは違った幻想的な雰囲気良かったですね。本殿をバックに色々なミュージシャンが歌ったり演奏したりといったステージも素敵でしたね。最近、マルシェ、蚤(のみ)の市も開かれていて、雑誌で見るようなおしゃれな衣類とか、雑貨とか、軽食やスイーツもあって、地元としてもとても楽しみな催しになっています。

眞木 ちょうど3年くらい前からになりますが、女性向けの雑貨やファッション、スイーツ、お食事等が出店される蚤の市が始まりました。この蚤の市の日は、朝早くから駐車場が満車になるくらいみなさんが駆けつけてくださりまして、水天宮を広く知っていただくきっかけにも繋がっているなと思いますし、賑やかな場所であるということが、これから先、神社としても本当に必要なことになるのかなと思っています。

坂本 お見えになっているみなさん、割と若い方とか女性も多くて、なかなか素敵だなと思います。神社というと、来るのは子供さんとか年配の方みたいな感じもするんですが、新たに人々が集う場として非常に面白いなと思います。そういった色々なイベントを取り込まれるということで、水天宮の懐の大きさというか、新しい可能性がどんどん広がって行く感じがしています。そして、今後、水天宮をどのようにしていきたいとお考えになっているのかお聞かせください。

眞木 水天宮は830年以上の歴史があり、本当に伝統とか歴史を重んじていかなければならないと思っています。それと同時に、若返る神社でないといけないなとも思っています。そのためには、時代に合った神社づくりというのも必要になってくるんじゃないかなと思います。今はネット社会になって、その場に行かなくても参拝ができたり、風景を見たり、体験できたりというバーチャルの時代になっています。でも、神社というところは、自分が持っている視覚や聴覚、嗅覚など五感で楽しんでもらえる場所じゃないといけないなと思っています。四季に合った神社を堪能して頂ける、そういった時間を作って頂きたいなと思っています。

坂本 具体的には、どんな感じですか？

眞木 水天宮の南側なんですけど、眞木和泉守の銅像の隣に、これまで何度もお話をさせて頂いている山樞窩(さんしか)のレプリカがあるんです。その山樞窩の中は元々茶室だったのですが、そこを全て土足で上げられるようなバリアフリーの建物にしています。

その中が蚤の市だったりフリーマーケットの一角だったりといった形で、みなさん方が活用できる場所になればいいなと思っています。

坂本 素敵ですよ。藁葺(わらぶき)で感じのいい建物だなと思いますね。  
水天宮の新たな可能性が広がった気がします。  
私たち近所の者はもちろん楽しみなんですけど、  
久留米市内外から多くのみなさんが集まって頂けたらいいなと思います。  
人が集まる場所というのは、とても新鮮で、実は水天宮の原点なのかもしれないと思いました。  
シリーズの最終回になりますので、  
最後に眞木さんからリスナーのみなさんへメッセージをお願いします。

眞木 5回にわたって水天宮をご紹介させて頂きました。  
最後にお伝えしましたように、神社というのは、四季であったり、朝と夕方の時間で顔が違いますし、特に水天宮から眺める筑後川、その裏側にある背振(せふり)というのは、季節でも時間でも全く違います。  
そういったところを堪能できて、お参りでなくてもその場の雰囲気だったり、その場の香りや匂いを楽しめるのも神社の魅力の一つだと思っていますので、気軽に神社にお立ち寄りください。  
本当にありがとうございました。

坂本 眞木さん1か月にわたり水天宮の楽しいお話をありがとうございました。  
水天宮にお越しの際は、密を避け境内の感染症対策にのっとり参拝をお願いします。  
8月は『有馬入城400年』をテーマにお届けします。  
お楽しみに!